

# 実感されない損失を減少させる 社会への転換

東京大学名誉教授  
つきおよしお  
**月尾嘉男**

## 喫煙や肥満がもたらす社会損失

煙草愛好の読者には不快な情報であるが、イギリスの医学雑誌に、喫煙の有無による平均余命の差異は約一〇年という論文が掲載されている。個人の自由という意見もあるが、日本の場合、喫煙起因の病気の治療、火災による損害、逸失される労働機会などを合計すると年間約七兆円の損失になり、煙草の税金などを差し引いても約四兆円になる。消費税率

三分増大による約八兆円の税金の半分に相当する巨大な社会損失になっている。

これも該当する読者には不快な情報であるが、アメリカでは平均より三割以上の過度な肥満は寿命を三・六年短縮させ、二割以上の肥満は二・五年短縮させるという結果が報告されている。三年か四年の寿命短縮であれば美食をしたほうが個人としては幸福という意見があるかもしれないが、アメリカでは肥満に起因する



病気の治療に年間八兆円近くが投入されているから、個人の自由という以上の社会問題である。  
日本は人口あたりの自殺者数が世界で一二番目に多数であり、先進諸

国と比較するとギリシャの六倍にもなる。自殺という不幸な結果に到達する事情は様々であり、個人を非難することはできないが、それらの人々が健全に生活できれば獲得できたであろう所得や、最悪の結果に到達するまでの治療に必要な費用などを合計すると約三兆円になるといふ政府の推計もあり、個人の問題であると同時に社会の問題でもある。

## 経済優先思考がもたらす損失

それ以外に、個人そして社会に損失をもたらす要因は経済優先思考である。春先から花粉に苦慮する人々が急増し、日本の花粉症患者数は二〇〇〇万人にもなる。その治療に必要な費用や労働効率の低下などの合計は約五兆円という推計がある。一五〇〇万人はスギ花粉が原因とされるが、それは木材を短期で生産する目標を目指した戦後の植林の結果である。日本の林業の木材生産は二二〇〇億円程度であるから皮肉な結果である。  
道路交通が存在しなければ現代社

会は維持できないことは事実であるが、その技術が発生させる交通事故による国内での年間の損失は物的損失が約四兆円、心的損失が二兆三三〇〇億円で、合計すると六兆三三〇〇億円になる。さらに道路渋滞による年間約五三億時間の損失を金銭に換算すると一二兆円というのが政府の推計である。日本の輸送機械の生産は一〇兆円程度であるから、それを上回る損失が発生していることになる。

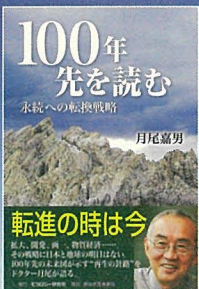
## 歴史の教訓を社会に反映させる

物理世界に摩擦のない現象は存在しないと同様、人間社会にも損失のない現象は存在しない。これら個人の努力だけでは解決できない問題に社会が対処する必要があるが、第一は損失を減少させる仕組みを社会に組み込むことである。イギリスでは炭酸飲料に新規の課税をし、肥満患者の減少とともに約四三〇億円の税収も獲得できる一石二鳥の税制が検討されている。企業が禁煙手当を支給して喫煙を減少させる事例も増加

している。

第二はオットー・フォン・ビスマルク宰相の意識された有名な言葉「賢者は歴史に学習する」のように、過去の成功や失敗の経験を社会に反映させることである。残念ながら、現実には自分の経験に依存する愚者が社会に氾濫している。以前、大河ナイルの中流に建設されたアスワン・ハイダムが自然の循環を遮断し、何千年間も持続されてきた肥沃な河口のデルタ地帯の農業を破壊し、恩恵に匹敵する損失をもたらしたことを紹介した。

しかし現在、東日本大震災で被災した東北地方の太平洋岸では、一七〇〇kmの海岸線沿いに約三七〇kmの防潮堤防の建設が一兆円近い費用をかけて進行している。万里の長城である。今回、防潮堤防が役立つ集落もわずかに存在するから、すべて否定はできないが、高台移転や避難訓練が有効であったことも実証されている。大構造物が景観を破壊し、海陸の循環を阻害することは確実である。賢者に立返る必要がある。



絶賛発売中!!  
ご注文は添付のハガキで